

電源開発(パワール)は、大間町で建設中の大間原発について、2024年後半としていた安全対策工事の開始時期を延期する発表...

工事延期も30年度運転維持

大間原発 電事連計画に配慮

19日 日本原子力発電(原燃)は、使用済み核燃料の再処理工場(六ヶ所村)の完成目標と軌を一にしていた...

知事交代 操業へ加速

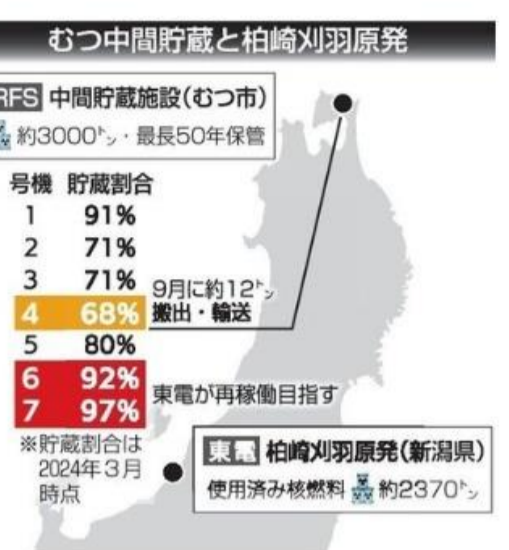
「見極められない」とは言えないはずだ。2023年8月、知事就任1カ月半、宮下宗一郎知事は報道を通じ、むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設の操業時期を示すよう、事業者のリサイクル燃料貯蔵(RFS)に迫った...

柏崎再稼働の思惑絡む

2023年12月、使用済み核燃料を中間貯蔵施設(むつ市)に初搬入する道が開けた。規制当局が東京電力ホールディングスに課した東電柏崎刈羽原発(新潟県)の核燃料移動禁止命令を解除し、柏崎刈羽原発(新潟県)の核燃料移動を再開させた...

核燃料初搬入

むつ中間貯蔵施設



新潟の「地元同意」に配慮 われては絶対に駄目と懸念する向きがあった。新潟県の花角英知事は、再稼働を後押ししてきたが、トランプや不備が相次ぐ東電への不信は残る...



↑9/30 デーリー東北 ↓9/29 東奥日報

むつ中間貯蔵に核燃料

東電初搬入 事業開始へ

原燃の敷地外で使用済み核燃料を一時保管する国内初の中間貯蔵施設(むつ市)に26日、核燃料が初めて搬入された。東京電力ホールディングスが柏崎刈羽原発(新潟県)から搬入、海上輸送した核燃料69体入り...

むつ中間貯蔵施設を巡る主な経緯

Timeline table showing key events from 2000 to 2024, including investigations, agreements, and the start of operations.

再処理と共同歩調崩れる

再処理工場と歩調を合わせ、使用済み核燃料中間貯蔵施設(むつ市)に搬入された...



安全協定に向けた協議入り... 3月27日、東京電力ホールディングス(当時)の代表取締役社長が口頭説明で、その一文を流すことにはなかつた。

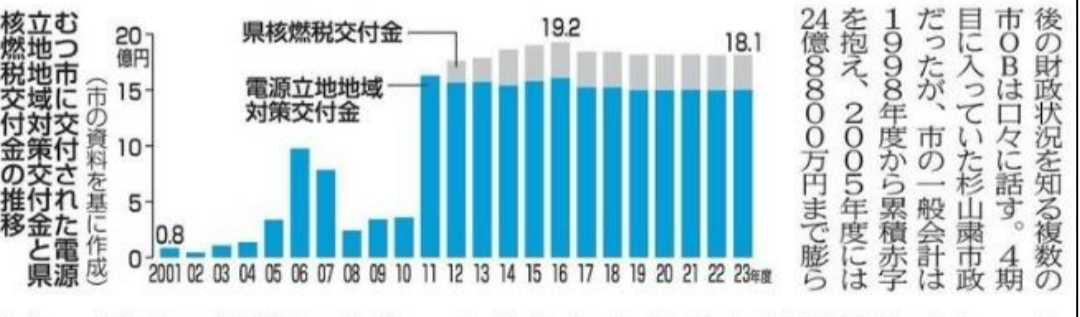
新潟の「地元同意」に配慮

新潟の「地元同意」に配慮 われては絶対に駄目と懸念する向きがあった。新潟県の花角英知事は、再稼働を後押ししてきたが、トランプや不備が相次ぐ東電への不信は残る...

むつ市財政 潤うか

中間貯蔵施設に核燃料搬入

むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設に26日、核燃料69体が入った金属容器(キャスク)が搬入された。市がリサイクル燃料貯蔵(RFS)に独自の課税スタート...



独自の課税スタート 山本知也市長は26日の取材に対し、核燃料搬入を産業振興、子育て施策、防災対策などに活用する考えを述べた...

むつ中間貯蔵核燃料初搬入 本記1面

むつ市に立地する国内初の中間貯蔵施設に26日、使用済み核燃料69体を搬入した。キャスクは円柱状で全長約5・4メートル、直径約2・5メートル、重量約12トンを収納する。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。

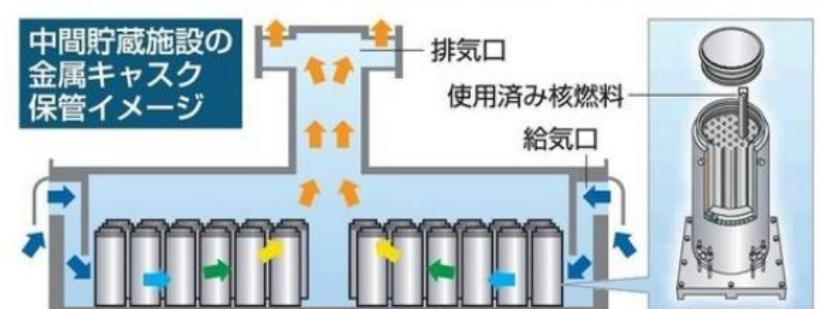
期限50年 カウント始まる

金属キャスク288基収納可

が運び込まれた。リサイクル、輸送・貯蔵兼用で1基の建屋を建設し、さらに2基の建屋を建設する。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。



中間貯蔵施設に入る、使用済み核燃料を載せた運搬車両。26日午後3時55分、むつ市本社前（左木大輔撮影）



中、ただ、この2社が保有する原発は、いずれも再稼働のめどが立っていない。（佐々木大輔）

重大事故 想定されない施設だが…

むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設は、放射性物質が放出される危険性が極めて低いとされ、避難計画が必要な「原子力災害対策重点区域」の設定を必要としない施設に区分される。ただ、周辺地域に影響が及ぶ危険が高まった場合、県地域防災計画では「必要に応じて屋内退避の可能性を注意喚起する」としている。

高さが9メートルの落下試験、800度（30分）での耐火試験などで安全性を確認。高橋泰成リサイクル燃料貯蔵（RFS）社長は「大量の放射性物質を放出する重大な原子力事故が想定される施設ではない」と説明する。

緊急時 まずは屋内退避

放射性物質の放出など事故が起きた場合、県担当課は「UPZ外と同様の対応を取る」と説明する。防災計画には「全面緊急事態に至った」場合として、県はまず屋内退避の可能性を市町村に注意喚起する。と定める。放射線量や事態の進展に応じて、住民避難や一時移転などを行うとしているが、「その時の状況に応じて実際に対応を決めるのは国」だという。ミサイルなど武力攻撃への対応について、原子力規制庁は「施設的设计や事業者の対処で安全を確保するのは事実上不可能」と指摘。資源エネルギー庁は「イージス艦や地对空誘導弾パトリオット（PAC3）で対応するほか、施設の使用停止命令や住民避難などの措置を政府全体として準備している」とした。（佐々木大輔）

核燃料12トン 運搬慎重



むつ搬入・ドキュメント

26日、むつ市に立地する国内初の中間貯蔵施設に、使用済み核燃料12トンが初めて搬入された。核燃料が入った金属容器「キャスク」を載せた運搬船が施設付近の港に到着し、施設へ運び込まれるまでの1日を追った。（佐々木大輔、山内はるみ）

午前6時過ぎ、津軽海峡に面した港近くの海岸。元漁師の住民男性（86）は震間から差すまぶしい朝日を浴びながら、「あれがその船か」と沖合を指さした。運搬船は25日夜から沖合に停泊していた。男性は毎朝、海岸を訪れる。「電力さんには世話になっていくけど、賛成・反対に分かれて（住民同士）のつながりが悪くなった時期もある。それに、中間」といって、最後はどつなるとか「どつなるとか」。

周囲に警官 反対派デモも



RFS本社前でシュプレヒコールを上げる反対派の人たち—26日午前11時2分

内外から約60人が集結。車中泊した参加者もいたという。各団体の代表は「下北を核のごみ捨て場にしてはいけない」「私たちだけの問題ではない」と訴えた。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。RFSは2棟目分は、東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の貯蔵プールから搬入する。

専用道路を見上げるように交差する一般道の周辺には、大勢の警官が配置され、ものものしい雰囲気。漂う中、キャスクを積んだ車列が通り過ぎた。敷地の入り口には白い鋼鉄の巨大な柵があり、ハンドルを回して開門。作業員らが見守る中、運搬車両は後進しながら施設に近づいていった。同4時25分、キャスクが施設に到着した。

東京電力柏崎刈羽原発（新潟県）の専用岸壁に運搬船が接岸した23日午前8時半から約80時間、中間貯蔵施設へのキャスク初搬入は、核物質防護上の観点から慎重を期した。運搬車両は施設内に乗り入れ、搬入完了。RFSはこの日、キャスクに傷がないかなどの確認を行った。本格的な検査は27日以降となる。



【写真右】むつ市の港で岸近く使用済み核燃料の運搬船。26日午前8時8分【同左】運搬船から陸揚げされる使用済み核燃料の入った金属容器。同日午後0時31分（いずれも本社下ローンから撮影）

誘致表明から20年以上が過ぎ、初めて使用済み核燃料が搬入されたむつ市の中間貯蔵施設。事実上の事業開始を迎えた26日、地元関係者からは感慨、安堵、期待の声が上がった。一方、事業に反対する団体は今後も戦い続ける決意を新たにしていた。

誘致から20年 感慨、安堵

「ようやくここまで来た。長いなんてもんじゃなかった」。むつ市議12期目で、施設の誘致段階から議論に加わってきた佐々木肇・使用済み核燃料中間貯蔵施設に関する調査検討特別委員長は、そう振り返った。「国策に協力するという立場で市民に説明しながらここまでやってきた」とし、「住民が不安にならないよう、安全第一で事業を始めたい」と強調した。

地元関係者「安全操業を」

「めい努力する」と述べた。宮下宗一郎知事は、新規基準に基づいた審査や対策工事の結果、搬入がこのタイミングになったとの認識を示し、事業者に対し「安全な操業に向けて取り組みを進めてほしい」と求めた。一方、運搬船が接岸した港近くの海岸で抗議活動を行った「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」。市の誘致打診が明らかになった00年の結成時から代表を務める野坂庸子さんは、「これまで疑問や危険性を主張してきたが、とても残念。国の政策に押し付けられて諦めることなく疑問を言い続けていく」と力を込めた。（本紙取材班）

「めい努力する」と述べた。宮下宗一郎知事は、新規基準に基づいた審査や対策工事の結果、搬入がこのタイミングになったとの認識を示し、事業者に対し「安全な操業に向けて取り組みを進めてほしい」と求めた。一方、運搬船が接岸した港近くの海岸で抗議活動を行った「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」。市の誘致打診が明らかになった00年の結成時から代表を務める野坂庸子さんは、「これまで疑問や危険性を主張してきたが、とても残念。国の政策に押し付けられて諦めることなく疑問を言い続けていく」と力を込めた。（本紙取材班）

「めい努力する」と述べた。宮下宗一郎知事は、新規基準に基づいた審査や対策工事の結果、搬入がこのタイミングになったとの認識を示し、事業者に対し「安全な操業に向けて取り組みを進めてほしい」と求めた。一方、運搬船が接岸した港近くの海岸で抗議活動を行った「核の中間貯蔵施設はいらない！下北の会」。市の誘致打診が明らかになった00年の結成時から代表を務める野坂庸子さんは、「これまで疑問や危険性を主張してきたが、とても残念。国の政策に押し付けられて諦めることなく疑問を言い続けていく」と力を込めた。（本紙取材班）

使用済み核燃料 むつ搬入

柏崎原発から、初の中間貯蔵開始 69体、最長50年保管

東京電力は26日、柏崎刈羽原発（新潟県）の使用済み核燃料を、むつ市の中間貯蔵施設に初めて搬入した。再処理工場で処理されるまでの間、最長50年間にわたって保管する計画で、原発敷地外での中間貯蔵は国内初となる。また、搬出先として想定する六ヶ所村の再処理工場は稼働のめどが立っていない。施設を運営するリサイクル燃料貯蔵（RFS）が最終の使用前事業者検査を行い、国の確認を経て正式に事業開始となる。

【26日関連記事】
東電と日本原子力発電が、東電とRFSによる共同出資するRFSは当初、9月の事業開始を予定していたが、検査に時間がかかると見込まれ、10月中旬開始時期を後ろ倒しして、同原発の専用岸壁に運搬船が接岸し、24日に核燃料を封入した金属容器（キャスク）1基を積み込み、同日午後、むつ市に向けて出港。25日午後、同市の沖合に到着した。

26日は沖合に停泊していた運搬船が午前8時10分ごろ、中間貯蔵施設近くの港に接岸。クレーンを使って慎重に船からトレーラーにキャスクを積み替え、搬入作業を終えた。

今後、25年度に2基（計24）、26年度に5基（計60）を搬入する。2棟目の施設も建設し、最終的に計5千トンの核燃料を保管する予定だが、具体的な計画は立っていない。



が接岸し、24日に核燃料を封入した金属容器（キャスク）1基を積み込み、同日午後、むつ市に向けて出港。25日午後、同市の沖合に到着した。

26日は沖合に停泊していた運搬船が午前8時10分ごろ、中間貯蔵施設近くの港に接岸。クレーンを使って慎重に船からトレーラーにキャスクを積み替え、搬入作業を終えた。

今後、25年度に2基（計24）、26年度に5基（計60）を搬入する。2棟目の施設も建設し、最終的に計5千トンの核燃料を保管する予定だが、具体的な計画は立っていない。

は、搬入に反対する市民団体が「中間貯蔵という名の永久貯蔵を許さない」などと抗議の声を上げた。

午後3時20分ごろキャスクの陸送を開始。約1・5時間の専用道路を通り、同4時25分ごろ施設に到着。搬入作業を終えた。

今後、25年度に2基（計24）、26年度に5基（計60）を搬入する。2棟目の施設も建設し、最終的に計5千トンの核燃料を保管する予定だが、具体的な計画は立っていない。

最長50年間保管した後、六ヶ所村の再処理工場に搬出する計画だが、工場は完工延期を繰り返しているほか、保管の期限切れを迎えた時点でも、稼働しているかどうか不明で、なし崩し的にため置かれるとの懸念が根強くある。

一方、施設へのキャスク搬入により、県と市の核燃料税の課税が始まる。国にサイクル協議会の開催を要請している宮下知事は「中間貯蔵施設がサイクル事業でどう位置づけられるか確認したい」と強調。山本知也市長は「県や事業者と共に地域振興のために努力していきたい」と述べた。

「核のゴミを持ち込むな」。使用済み核燃料搬入に抗議の声を上げる反核団体のメンバー。26日午前10時50分ごろ、むつ市

むつ市に使用済み核燃料が搬入された26日、市街地では普段通りの光景が見られた。同日午後4時ごろ

買った物途中だった60代女性には、原子力と関わりが深い地域であるだけに「複雑な思いはあるが、搬入はしょうがない。正直、普段の生活に差し支えないから」と淡々と語った。

中間貯蔵施設にほど近い関根地区の住民は不安を隠さない。関根漁港のそばに住む80代女性は「いつ来るかと思っていたけれど、いざ核燃料が来たとなるとやっぱり少し怖い」と胸中を吐露した。

事業者と県、むつ市が安全協定を締結して19年。女性には遠慮をのぞき、津軽海峡に浮かぶ運搬船を買った。田名部社団周辺の飲食店や飲食店を営む40代男性は「中間貯蔵に関わる常連客や出張客で持っている部分があり、簡単に批判はできない」と慎重に言葉を

県内に集積する核燃料 行き場に不安、見切り発車

むつ市の使用済み核燃料中間貯蔵施設に26日、最初の核燃料が搬入された。青森県内には、既に六ヶ所村の再処理場に約3千トンがあり、今後、さらに大量の核燃料が集まることになる。一方、50年貯蔵した後の搬出先とされる再処理工場はいまだ動いていない。国内初の原発敷地外での中間貯蔵は、核燃料が行き場を失う不安を残したまま、見切り発車する形となった。

【16日に本記】
再処理工場の貯蔵プールは全国の原発で使い終わった核燃料で満杯だ。仮に完工して燃料の再処理が進んでいくと、全国的には約1万6700トンが残っており、空いたプールはまたすぐに埋まる見通しだ。

中間貯蔵施設は、完成している1棟目で3千トンを貯蔵。将来的に2棟目を建設してさらに2千トンを貯蔵する計画で、搬入のタイミングにもよるが、再処理工場の貯蔵プールと合わせて、県内に最大8千トンが積み上がる可能性がある。

日本は、使用済み核燃料を全量再処理して再利用する核燃料サイクルを国策としており、中間貯蔵は再処理するまで、最長50年保管する施設だ。

一方、日本原燃は8月下旬に27回目となる再処理工場の完工延期を表明。中間貯蔵施設への搬入を目前に、搬出期限を守るといふ国や事業者への信頼は大きく揺らいだ。

県はこれまで、国や電力業界に対し、再処理工場が稼働していることを前提に「政策は整合的に進めるべき」との認識を確認してきた。ただ、今回、中間貯蔵のみが先行する形となり、整合性の議論は置き去りにされる格好となった。

県内で増え続けているのは、使用済み核燃料だけではない。既に六ヶ所村にある日本原燃の施設で高レベル放射廃棄物（ガラス固化体）を一時保管しており、低レベル廃棄物も埋設して最終処分している。

県の原子力立地自治体の関係者は「要となる再処理場があり、中間貯蔵施設の事業も始まる。核燃料サイクルのバックエンド（後処理）で青森県が存在感があるが、比例するように県民の負担も増している。」と指摘する。

反核燃団体「搬入中止を」 地元住民「複雑」「少し怖い」

「核のゴミを持ち込むな」とされる六ヶ所村の再処理工場が操業していないことを挙げ、「少なくとも工場が動くまで搬入は中止すべきだ」と訴えた。

中間貯蔵施設から南へ約8キロ、市内中心部の市民の多くは搬入を静かに受け止めた。田名部社団周辺の飲食店や飲食店を営む40代男性は「中間貯蔵に関わる常連客や出張客で持っている部分があり、簡単に批判はできない」と慎重に言葉を



宮下知事（手前左）に新病棟整備への支援などを要望する5市町村長。25日、青森県庁

むつ総合病院の整備支援を要望
下北地域5市町村の首長と議長で構成する下北総合開発期成同盟会は25日、青森県に対し、むつ総合病院の新病棟整備への支援、国道279号と308号のバイパス早期整備などを要望した。

会長の山本知也むつ市長らが同日、県庁に宮下知事らを訪ねた。

新病棟の整備費は当初187億円を見込んでいた

が、技術者不足や物価高騰で350億円に膨らんだ経緯がある。

山本市長は物価高騰を反映した形で、総事業費の4分の1が国から確実に補助されるよう協力を求めた。宮下知事は「国の動向を注視し、交付金を念頭に要望に添えるようにしたい」と述べた。

風間浦村の富岡宏村長は、279号の同村易国間からむつ市大畑町木野部まで約14キロの早期整備に触れた。宮下知事は「まずは供用開始目標を宣言できるようにしたい」と応じた。

山本市長は取材に、赤字だった大間一函間フェリー航路への財政支援、核燃料交付金の増額など、長年の要望がこの1年で大きく前進したとし、「今後は特に病院建て替え、道路整備を県と一緒に進めていきたい」と語った。（岩淵修平）



東京電力柏崎刈羽原発の使用済み核燃料を入れた容器が到着した中間貯蔵施設＝26日午後4時ごろ、むつ市（共同通信社ヘリから）

日本は、使用済み核燃料を全量再処理して再利用する核燃料サイクルを国策としており、中間貯蔵は再処理するまで、最長50年保管する施設だ。

一方、日本原燃は8月下旬に27回目となる再処理工場の完工延期を表明。中間貯蔵施設への搬入を目前に、搬出期限を守るといふ国や事業者への信頼は大きく揺らいだ。

「搬入を中止せよ」。「複雑だがしょうがない」。「核のゴミを持ち込むな」とされる六ヶ所村の再処理工場が操業していないことを挙げ、「少なくとも工場が動くまで搬入は中止すべきだ」と訴えた。

中間貯蔵施設から南へ約8キロ、市内中心部の市民の多くは搬入を静かに受け止めた。田名部社団周辺の飲食店や飲食店を営む40代男性は「中間貯蔵に関わる常連客や出張客で持っている部分があり、簡単に批判はできない」と慎重に言葉を

「核のゴミを持ち込むな」。使用済み核燃料搬入に抗議の声を上げる反核団体のメンバー。26日午前10時50分ごろ、むつ市

むつ市に使用済み核燃料が搬入された26日、市街地では普段通りの光景が見られた。同日午後4時ごろ

買った物途中だった60代女性には、原子力と関わりが深い地域であるだけに「複雑な思いはあるが、搬入はしょうがない。正直、普段の生活に差し支えないから」と淡々と語った。

中間貯蔵施設にほど近い関根地区の住民は不安を隠さない。関根漁港のそばに住む80代女性は「いつ来るかと思っていたけれど、いざ核燃料が来たとなるとやっぱり少し怖い」と胸中を吐露した。

事業者と県、むつ市が安全協定を締結して19年。女性には遠慮をのぞき、津軽海峡に浮かぶ運搬船を買った。田名部社団周辺の飲食店や飲食店を営む40代男性は「中間貯蔵に関わる常連客や出張客で持っている部分があり、簡単に批判はできない」と慎重に言葉を

買った物途中だった60代女性には、原子力と関わりが深い地域であるだけに「複雑な思いはあるが、搬入はしょうがない。正直、普段の生活に差し支えないから」と淡々と語った。

中間貯蔵施設にほど近い関根地区の住民は不安を隠さない。関根漁港のそばに住む80代女性は「いつ来るかと思っていたけれど、いざ核燃料が来たとなるとやっぱり少し怖い」と胸中を吐露した。

事業者と県、むつ市が安全協定を締結して19年。女性には遠慮をのぞき、津軽海峡に浮かぶ運搬船を買った。田名部社団周辺の飲食店や飲食店を営む40代男性は「中間貯蔵に関わる常連客や出張客で持っている部分があり、簡単に批判はできない」と慎重に言葉を

燃料搬出「再稼働へ前進」

柏崎市長評価、市民は反発

新潟県の東電電力柏崎刈羽原発から使用済み核燃料が搬出された。一方、市民団体が抗議活動を展開。柏崎市長の再稼働への評価が、市民からは反発を招いた。

柏崎市長は、再稼働への評価を述べた。市民からは反発を招いた。柏崎市長は、再稼働への評価を述べた。市民からは反発を招いた。

↑9/25 デーリー東北 ↓9/21 東奥日報

「永久貯蔵なりかねぬ」

使用済み核燃料搬入に抗議の声

リサイクル燃料貯蔵(RFS)が運営する中間貯蔵施設(むつ市)に26日、東京電力柏崎刈羽原発(新潟県)から使用済み核燃料66体(ウラン重量約12t)が運び込まれた。使用済み核燃料を原発敷地外で中間貯蔵する全国初の事例だが、搬出先候補となる六ヶ所村の再処理工場は完成遅れが続き、現場では人々が反対の声を上げた。

むつ中間貯蔵

船内のキャスケットをクレーンで約10分かけて作業が完了した。搬入作業は午後4時25分、沿岸から8時間以上要した。「核のこみ」を持ち、現場は慎重に進められた。

「県も船の中への検査や周辺環境への検査を、安全にやることが重要だ」と、知事が述べた。知事「問題なく進められた」



- 中間貯蔵施設をめぐる主な出来事
- 2000年 むつ市が東京電力に立地可能性調査を依頼
 - 03年 むつ市長(当時)が誘致を表明
 - 05年 県、市、東電などが立地協定
 - 10年 着工
 - 11年 東電福島第一原発事故
 - 13年 1棟目の建屋完成
 - 20年 むつ市が使用済み核燃料に課税する条例制定
 - 原子力規制委員会の新基準に「適合」
 - 電事連が中間貯蔵の共用案公表
 - 24年 県議会、使用済み核燃料に課税する条例改正案可決
 - 県と市、事業者が安全協定締結
 - 再処理工場(六ヶ所村)が27回目の完成延期
 - 使用済み核燃料を搬入



「核のこみ」を持ち、現場は慎重に進められた。知事「問題なく進められた」

9/27 朝日新聞

柏崎原発の核燃料搬出に反対集会。新潟24日、むつ26日。9月の使用済み核燃料搬入を予定する中間貯蔵施設(むつ市)を巡り、市民団体「核のこみ」から未来を守る県民の会」は26日午前10時ごろから、搬入港近くの同市・関根浜海岸で緊急集会を開催した。一方、使用済み核燃料が運び出される東京電力柏崎刈羽原発が立地する新潟県の市民団体は、搬出作業に反対する抗議集会を24日午前、同原発近くの柏崎市内で開く。

「市民の安全を守るため市がしっかりと監視してほしい」と要望した。署名は、全国の市民団体や反核・反原発の会合などを通じて4月30日から9月20日まで集め、手書きで1055筆、インターネット上で1274筆となった。

329筆を同市に提出している。(佐々木大輔)

事業開始 来月ずれ込みも

RFSは8月9日に青森県、市と安全協定を締結した。核燃料を封入した金属容器(キャスク)を搬入して1週間程度の最終検査を実施、さらに国の確認を受ければ事業開始となる運びで、9月中旬に1連の手続きを見込んでいた。

RFS、検査期間の変更申請

5月に規制委に届け出た書類では検査の終了時期を「9月下旬」としていたが、時期を「10月初旬」とする変更を9月6日に申請し、受理されていた。

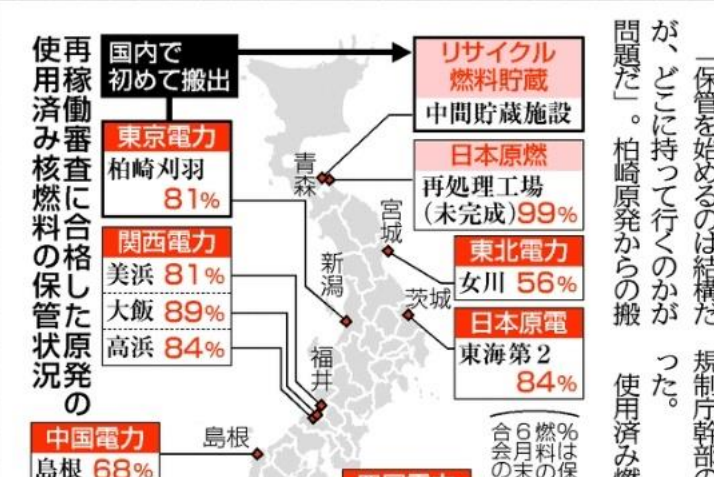
←9/25 デーリー東北 ↑9/11 デーリー東北

原発燃料「出口」見えず

国内唯一の中間貯蔵施設(むつ市)へ、使用済み核燃料の搬出が24日、始まった。東京電力柏崎刈羽原発(新潟県)など全国の原発では、再利用するはずの使用済み核燃料がたまる。満杯になれば原発は運転停止を迫られる。再稼働を進める政府や電力会社にとって痛手だ。施設を一時の保管場所として活用する構えだが、燃料問題の「出口」は今も見えない。

むつ中間貯蔵施設へ初搬出

「再稼働を進める結果、増え続ける使用済み核燃料は、最終処分場が満杯になると、原発は運転停止を迫られる。再稼働を進める結果、増え続ける使用済み核燃料は、最終処分場が満杯になると、原発は運転停止を迫られる。再稼働を進める結果、増え続ける使用済み核燃料は、最終処分場が満杯になると、原発は運転停止を迫られる。」



使用済み満杯で運転停止も

「再稼働を進める結果、増え続ける使用済み核燃料は、最終処分場が満杯になると、原発は運転停止を迫られる。再稼働を進める結果、増え続ける使用済み核燃料は、最終処分場が満杯になると、原発は運転停止を迫られる。」



大間原発の工事開始時期延期を説明する菅野等社長（中央）。右は野崎尚文町長＝6日、大間町

大間原発 工事開始時期示さず

大間原発 2年程度で新工程提示

電源開発（Jパワー）は6日、大間町で建設中の大間原発について、2024年後半とされていた安全対策工事の開始時期を延期すると発表した。工事開始の新たな目標時期は示さず、今後2年程度かけ、新規規制基準の適合性審査が進んだ段階で改めて決定する。開始時期を先送りする一方、工事は29年後半、運転開始は30年度の目標時期を維持した。（2次に関連記事）

町役場で開かれた町議会特別委員会に出席した菅野等社長は延期を陳謝。今後町議からは「明確な工程を示すべきだ」「地元業者は一度もはしごを外されていない」と苦言が上がった。県庁で萩原修副社長から延期報告を受けた小谷知也副知事は、立地地域への経済的影響を懸念し「地域貢献という点も重要。安全対策工事以外の工事について地元への配慮をお願いした

張なごを進め、発注量を増やすことで地域経済への貢献も果たすとした。野崎尚文町長は工事延期となったものの、工事が維持される見通しを踏まえて「審査は少しずつ進んでおり、必要な時間と前向きに捉えたい」と強調。ただ町議からは「明確な工程を示すべきだ」「地元業者は一度もはしごを外されていない」と苦言が上がった。県庁で萩原修副社長から延期報告を受けた小谷知也副知事は、立地地域への経済的影響を懸念し「地域貢献という点も重要。安全対策工事以外の工事について地元への配慮をお願いした

対した丸井裕議長は「見通しを示すまでに2年くらいかかる」と話したが、工期は変わらない。果たしてできるのかで疑問を呈した。宮下宗一郎知事は「新たな工事開始時期を可能な限り早期に示すとともに、安全確保を第一に責任を持つて取り組んでほしい」と文書でコメントした。大間原発は、全炉心でプルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料を使うことができる世界初の商用原子炉。08年に着工したが、東日本大震災後に工事を中断している。工事の進捗率は37・6%。（編修平、藤野武）

工事開始 2年程度延期

大間原発 30年度稼働は維持

電源開発（Jパワー）は6日、大間町に建設中の大間原発について「2024年後半」としていた安全強化対策工事開始を延期すると表明した。着工の前提となるプラント施設審査入りまで2年程度を見込んでおり、審査開始後に新たな目標を示す予定。一方、「30年度を目指す」としている運転開始時期は維持する方針を示した。同社の菅野等社長らが同日、大間町や県などに報告した。



原子力規制委員会の新規規制基準適合性審査の長期化を延期理由に挙げた。近年では基準地震動（耐震設計の目安となる揺れ）策定に關して断層の深さを誤入し、審査再開まで半年以上の期間を要した経緯がある。大間原発の安全工事延期について大間町議会に報告する電源開発の菅野社長

「30年度」あくまで「目標」 Jパワー

電源開発（Jパワー）は大間原発（大間町）を巡り、安全対策工事の開始時期を延期する一方、運転開始は2030年度から変えなかった。萩原修副社長は報道陣に「30年度はプルサーマル計画で非常に重要な年で、そこは目指したい」と据え置いた理由を説明。「1つ1つの箱（見直し）がきちりとできているわけではない」とも述べ、30年度

の運転開始はあくまで「目標」との位置づけだ。「事業者として（プルサーマル計画の）目標を達成する努力は必要」。菅野等社長は30年度の意義をそう語った。プルサーマルは、使用済み核燃料を再処理して製造するMOX（フルトニウム・ウラン混合酸化物）燃料を一般の原子炉で燃やす発電方法。大間原発もプルサーマルを計画する。同日の大間町議会大間原発対策特別委員会で、菅野社長は「責任を深く感じている。町の皆さまの期待に沿えずおわび申し上げます」と陳謝した。同社は14年12月に新規規制基準適合性審査を申請したものの、基準地震動、基準津波の審査は継続中。プラント施設審査開始後は、工事全体の

「確度の高い見通しを示せる」（菅野社長）とした。質疑で石戸秀雄町議会議長は「安全工事を含め（30年度の運転開始は）本当に大丈夫か」とたずね、菅野社長は「工程全体の検討も進めている。工事を工夫して実現したい」と語った。安全工事は新規規制基準に対応するため、格納容器や炉心の損傷防止、放射性物質の拡散抑制などを強化する目的で行う。野崎尚文大間町長は特別委員後の取材に対し、同社の方針に一定の理解を示した上で「工事の事前準備や前倒しでの対応で『30年度の運転開始』という約束を守っていただきたい」と述べた。県庁には萩原修Jパワー副社長が訪問し、工程の見直しを報告。対応した小谷知也副知事は「工程見直しは地域に不安を与えかねない事柄。地元へ寄り添った対応を引き続きお願いしたい」と述べた。安全強化対策工事の新工程を示す時

期について、「2年と言わず、可能な限り早く示してもらいたい」と求めた。宮下宗一郎知事は「安全確保を第一に責任を持って取り組み、安全強化対策工事以外の工事に当たっても、地元への配慮など地域振興に貢献してほしい」とのコメントを出した。大間原発は全炉心でプルトニウムを含むMOX（フルトニウム・ウラン混合酸化物）燃料を燃やすことができる世界初の商業炉。08年に着工したが、11年3月の東日本大震災後、工事は一時中断した。8月末時点で、工事の進捗率は37・6%となっている。

2008年4月	国が電源開発大間原発の原子炉設置を許可。5月着工
10年7月	函館市の市民団体が国と電源開発に建設中止などを求めて函館地裁に提訴
11年3月	東日本大震災と東京電力福島第1原発事故が発生。以降、建設が停滞
14年4月	函館市が国と電源開発に建設中止などを求めて東京地裁に提訴
12月	電源開発が原子力規制委員会に新規規制基準の適合性審査を申請
15年9月	審査長期化で21年度ごろの運転開始を約1年延期と表明
16年9月	運転開始を24年度ごろに再延期
18年3月	函館地裁が請求棄却の判決、原告側が札幌高裁に控訴
9月	運転開始を26年度ごろに3度目の延期
11月	原子力規制委が新規規制基準適合性審査の一環で初めて現地の地質調査
2020年9月	運転開始を28年度ごろに4度目の延期
22年9月	安全強化対策工事開始を24年後半、運転開始を30年度中に5度目の延期
24年9月6日	工事開始を延期、運転開始は30年度中を維持と表明

プルサーマル計画に配慮か

電源開発（Jパワー）は大間原発（大間町）の工事開始時期を事実上2年以上先送りしたにも関わらず、運転開始時期は2030年度を維持した。異例の判断の背景には、30年度が通常の原発でプルトニウムを使うプルサーマル計画の最終年度に当たる事情がある。大間は全炉心にプルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料を装荷できる世界初の「フルMOX原発」で、通常の原発3〜4基分の最大約1・7トンのプルトニウムを消費できるのが最大の特徴。消費の切り札的な存在で運転がずれ込めば、計画は整合性を失う。30年度の堅持は、保有量削減を掲げる政府や電力業界への影響を考慮した苦肉の策だったと言える。（1次に本記）

日本は23年末時点で国内 プルトニウムは保有44・外に約44・5トンのプルトニウムを保有する。現状の核六ヶ所村の再処理工場がフル燃料サイクルでは、使用済み核燃料を再処理して通常、少生産される見通し。工場は原発で使うプルサーマルが唯一の消費先だ。電気事業連合会はプルサーマル計画で「30年度まで少なくとも12基」の導入を掲げたが、現在再稼働しきれない状況だ。さらに運転30年度維持には別の理由にもしむ。政府は原発を脱炭素電源と位置

大間原発 30年度運転開始維持

付、30年度に温室効果ガスを13年度比で46%削減する目標を掲げる。50年の実質ゼロを目指すJパワーにとっても、意識せざるを得ない要素だ。菅野等社長は「（国や電事連の計画で）30年度は一つの節目。事業者として達成へ努力する必要がある。目標の重さや重要性は当然一つの要素となっている」と延期判断への影響を否定しなかった。ただ、5年と見込んでいた工期は最低でも2年の短縮を求められる。世界初の原発という性質上、審査が他の原発より長期化する可能性は十分考えられる。大間で5年の勤務経験がある菅野社長は大間町議から完工への決意を問われ、「もとの覚悟はある。実現に向けて取り組むと約束する」と強調したが、達成への道のりは極めて厳しい。（右編修平）

政府や電力業界意識、苦肉の策

政府や電力業界意識、苦肉の策。大間で5年の勤務経験がある菅野社長は大間町議から完工への決意を問われ、「もとの覚悟はある。実現に向けて取り組むと約束する」と強調したが、達成への道のりは極めて厳しい。（右編修平）